

平成29年度昭島市障害者地域支援協議会(専門部会)活動報告書

専門部会名称	こども支援部会			
平成29年度 取組目標	障害のある子ども達と家族のニーズに寄り添い、人権が尊重され、安心安全な生活の中で、もてる可能性を十分に伸ばすことのできる支援の在り方を考える。			
近況報告	12/6 施設見学 「てんとうむし」(重症心身障害児 児童発達支援、放課後等デイサービス) 「ドリームボックス」(放課後等デイサービス) 1/29 勉強会 「豊かな地域生活のために」～何が必要か、何ができるか～ 18名参加 講師 あきる野市障がい者就労・生活支援センターあすく 原 智彦氏			
現状と課題		解決のための方法	実施したこと	今後の課題
昭島市の児童発達支援、放課後等デイサービスの現状を知る。		施設見学を行う。	「てんとうむし」「ドリームボックス」の見学会を実施した。	色々と現状を知ることができたので、今後も施設見学を実施したい。
障害のある子ども達を育てるのに何が必要かを知る。		勉強会を行う。	原先生をお迎えして、勉強会を実施した。	子育てで大切なことを知ることができた。今後も保護者のニーズに添った勉強会を実施したい。
自由 記載欄				

平成29年度昭島市障害者地域支援協議会(専門部会)活動報告書

専門部会名称	就労支援部会			
平成29年度 取組目標	障害のあるすべての人のニーズに寄り添い、その人らしい就労生活の実現のためにライフステージに沿ったトータル的な就労支援の充実を図ることを目的とする。目的達成のための3本柱 1. 福祉就労から一般就労への促進 2. 見学会・研修会の充実 3. 市役所職場体験実習の固定化			
近況報告	1. 部会4回開催：5月12日、9月13日、12月20日、3月12日 2. オプション見学会・研修会開催：東京障害者職業能力開発校見学（6月29日） オリンパスサポートメイト株式会社見学（7月7日） 研修会「都教育庁のチャレンジ雇用」「就労準備性とは」（6月30日） 3. 学習会開催：「医療の現場から障害のある人の就労を考える」講師：たかつきクリニック 宮下光弘先生（12月6日） 4. 市役所職場体験実習担当者会議参加 5. 事務局会実施：4回 6. その他：昭島市地域支援協議会出席			
現状と課題		解決のための方法	実施したこと	今後の課題
○部会構成メンバーは、企業・労働・教育・医療・福祉・行政と幅広く、また、所属や支援対象者により、“就労・働く”の考え方や支援内容に差異があり、焦点を絞って深めることができない状況にある。 ○リーフレットを作成したが、商工会や市内事業所への理解啓発にはまだ取り組めていない。		○今年度は“働く力・働き続ける力”に焦点を絞り、現場の状況と課題を整理し、“就労準備性・働く力・働き続けるために必要な力”について部会メンバーからの提案を基に深め、共通確認をする。	① 就労移行支援・継続支援B型事業所、学校から現状と課題の報告と課題整理 ② 就労準備性を高める機関の見学と研修会 ③ 「働く力・働き続ける力」について学校・企業・医療・就労支援機関の提案と意見交換 ④ 精神科の先生を講師に学習会 ⑤ ハローワーク立川と合同で商工会訪問	○成果と今後の方向性：メンバーからの提案や意見交換は今後の方向性を示唆することに繋がった。次年度は、事例検討を中心に解決のための手立てや連携の在り方について検討していく。 ○課題：部会や研修会・見学会等により多くの参加をお願いしたいが、時間設定や事業所の体制等で厳しい状況である。
自由 記載欄	※市役所職場体験実習2年目である今年度は特別支援学校2校の2年生2名の実習を行い、昭島市役所の本庁舎内にとどまらず、市民図書館や市民会館・公民館などでも実習を行った。今後、市内福祉事業所通所の方への拡大を目指して、次年度から準備に入る。 ※市内事業所への理解啓発に向けて、商工会との連携（繋がり）促進を障害福祉課を中心に進めていきたい。			

平成29年度昭島市障害者地域支援協議会「専門部会」活動報告書

専門部会名称	生活支援部会			
平成29年度 取組目標	障害のあるすべての人のニーズに寄り添って、その人らしい地域生活が実現できるように、ライフステージに沿ってトータル的に生活支援の充実を図ることを目的とする。			
近況報告	・ 9月25日 部会 地域生活支援拠点の報告・学習会・事例検討の準備 ・ 10月24日 部会 事例検討 「介護保険利用の親と同居する障害の利用者の支援」 ・ 11月20日 成年後見制度の学習会（後見支援センター宮本様） ・ 12月11日 今後の部会取組について 学習会の検討（当事者の話） ・ 2月 5日 部会 事例検討（短期入所支援の課題）と学習会開催について話し合いを行う ・ 3月19日 部会 日中生活支援部会との統合についての報告			
現状と課題		解決のための方法	実施したこと	今後の課題
・ヘルパー・支援者の人材不足。 （確保と育成）		・障害の理解や専門性を高めるため、学習会の機会を増やす。	・来年度学習会予定。 講師：自閉症スペクトラム支援士	・他部会と合同で、ヘルパーの人材不足解消に向けた取り組み。
・障害のある方の権利擁護の在り方について、親族や地域への周知が不足している。		・世話人や支援者が、権利擁護や後見制度の知識を深めるための、具体的な活動を定期的に行っていく。	11/20・成年後見制度の学習会を開催。 （他部会にもインフォメーションした）	・本人や家族への周知や、成年後見制度の必要性の見極め。
・障害のある方が高齢になった時に備えて、現在の社会資源や情報が足りていない。		・地域の高齢分野の支援者と連携して情報交換していき、障害分野の支援者が高齢分野・介護保険制度の知識を高めていく。	・高齢の認知症グループホームや施設の見学を行い、支援状況等の確認を行った。今後は高齢分野の支援者にも障害者のグループホームの見学をしてもらい、障害のある方の地域での状況・情報を共有したい。	・障害福祉サービスにおいて障害者の高齢化に対応できるようにしていく（ヘルパー不足・環境の整備・改修の必要あり）
自由 記載欄	・部会委員のメンバーとしては、事業所だけではなく、重要な関係機関として高齢者の分野から地域包括支援センター、社会福祉協議会の地域福祉・後見支援センター、医療の分野からMSWなど、地域生活で連携が必要な職種の方に入っていた。			

平成29年度昭島市障害者地域支援協議会(専門部会)活動報告書

専門部会名称	相談支援部会			
平成29年度 取組目標	すべての障害のある方のニーズに寄り添って、その人らしい生活が実現できるように、ライフステージに沿ってトータルに相談支援の充実を図ることを目的とする。			
近況報告	➤ 平成29年度の部会では、平成28年度に挙げた地域課題の解決に向けて部会で具体策を検討した。今後も災害時の安否確認システムの確立や医療との連携など継続して検討していく課題も残った。 ➤ 相談支援の質の向上を目的とし成年後見制度の学習会、本人の意向に合わせたアセスメント方法を学ぶ研修会も開催した。 ➤ 事例検討会を通して地域の課題の分析と地域課題の抽出を行った。			
現状と課題		解決のための方法	実施したこと	今後の課題
1. ホームヘルパーの不足 2. 知的障害のある方が利用できる居場所(地域活動支援センター的な場所)がない。 3. 医療との連携方法。 4. 生活訓練など不足の資源がある。 5. 災害時の安否確認システムの構築。		1. 他部会と連携し取り組み、地域課題の解決策を検討していく。 2. インフォーマル、フォーマルな資源の活用ができるように利用者への提案や説明をしていく。 3. 資源の必要性を今後も相談部会で協議会等に挙げていく。 4. MSW、医療部会との連携。(具体的な方法は検討中) 5. 介護保険のシステムを参考に安否確認表の作成や安否確認方法を障害向けにどう構築していくか継続して検討していく。	1. 災害時の安否確認システムの構築のため介護保険のシステムを参考に安否確認表作成やシュミレーションの検討を行った。 2. 学齢期からの切れ目ない支援のために特別支援学校やスクールソーシャルワーカーとの懇談会を開催し、さらなる連携の強化に努めた。 3. 事例検討を通して地域の課題を抽出し、こども支援部会、生活支援部会とともに地域支援協議会へ課題として挙げた。	1. ホームヘルパー不足が深刻な課題となっている。解決に向けて地域支援協議会でのプロジェクトの発足が期待される。 2. 基幹相談支援センター、地域生活支援拠点についての今後の動向を確認していく。 3. 市内の社会資源の不足は長年の検討課題であり、地域支援協議会を通して自立支援推進協議会にあげてもらい第5期障害福祉計画へ反映してもらうよう要望していきたい。
自由 記載欄				

平成29年度昭島市障害者地域支援協議会(専門部会)活動報告書

専門部会名称	当事者部会			
平成29年度 取組目標	・部会の体制を見直し、精神・知的の障害者も部会に参加できる体制にする。 ・障害者が住みやすい昭島をめざし、障害者差別解消条例制定実現へ取り組む。 ・障害者当事者の視点による権利擁護の在り方を整理する。 ・当事者同士の理解を深め、当事者間の差別を解消する。 ・障害者の日常生活の質の向上（QOL）を図る活動を展開する。			
近況報告	・12/14 市長懇談会実施。市長とのコミュニケーションの場として好評でした。 ・2/18 「障害者差別と合理的配慮の実態」についての学習会を開催。講師は又村あおい氏。参加対象者を部会メンバー以外にも呼びかけた。好評でした。			
現状と課題		解決のための方法	実施したこと	今後の課題
①全障害者の当事者部会への参画が実現できていない。 ②障害者差別と合理的配慮の実態の把握が不十分。 ③障害者の視点からみた権利についての理解の共有が不十分。 ④健常者の障害者に対する理解が不十分。		①身体障害のみならず全障害当事者への理解を深め、差別を解消する。 ②障害者差別と合理的配慮の実態についての学習や事例検討をして解決への方法をさぐる。 ③障害者からみた権利への理解を深めるために学習の場をつくる。	①実態に詳しい方を講師に招き、障害者差別学習会を開催した。 ②学習会に部会構成団体メンバー以外の障害者および支援関係者にも参加を呼びかけた。 ③市長懇談会を開催し、市長に直接障害者の声を聞いていただいた。 ④部会で障害者差別について情報交換した。	①部会構成団体に所属していない障害者へ部会への参加呼びかけ方法の検討をしていく必要がある。 ②障害者差別と合理的配慮についての事例検討を行い整理しておく必要がある。 ③障害者の視点からみた権利についての学習を行なう必要がある。
自由 記載欄				

平成29年度昭島市障害者地域支援協議会（専門部会）活動報告書

専門部会名称	日中活動部会			
平成29年度 取組目標	すべての障害のある方のニーズに寄り添って、その人らしい生活が実現できるように、ライフステージに沿ってトータルに日中活動支援の充実を図ることを目的とする。			
近況報告	- 第1回日中活動部会は5月26日9:00～東京都立村山特別支援学校の見学会を行った。 - 第2回日中活動部会は9月14日10:00～12:00で市役所にて行った。前年度見学した都立あきる野学園、5月に見学した都立村山特別支援学校についての意見交換をし、学校で積み上げてきたことを活かせる支援体制のあり方等検討した。また、地域生活支援拠点について話し合った。 - 第3回日中活動部会は1月17日10:00～12:00で市役所にて行った。生活支援部会と日中活動部会の統合についての意見交換や卒業生の進路決定状況、生活介護事業の充実に関して、東京都重症心身障害児（者）通所事業について話し合った。医療型と地域施設活用型のうち、後者の見学会を今後実施する予定であった。			
現状と課題		解決のための方法	実施したこと	今後の課題
今後の卒業生が地元である昭島市で安心して通える場の整備が必要である。現状、医療的ケアが必要な卒業生の行き場がなく、地域生活支援拠点の中に医療的ケアが可能な生活介護事業所が必要であると意見が挙がった。		医療的ケアが可能な生活介護については、「東京都重症心身障害児（者）通所事業」という事業があり、基準等理解した上で地域生活支援拠点に盛り込むよう提案する。	- 都立村山特別支援学校の見学を行い、医療的ケアが必要な生徒の活動の様子等見学した。 - 東京都重症心身障害児（者）通所事業について理解する時間を設けた。	東京都重症心身障害児（者）通所事業を行っている滝乃川学園を見学し、実際どのように運営がなされているかを学び、地域支援協議会に報告していく。
自由 記載欄				

平成29年度昭島市障害者地域支援協議会（専門部会）活動報告書

専門部会名称	防災部会		
平成29年度取組目標	昭島市から死者を出さない		
近況報告	4月 7日	①避難行動要支援者名簿の作成 ②市としての避難行動並びに避難生活支援全体計画策定 ③部会としての年間計画の作成 ④「福祉避難所（モデルルーム）体験についての大枠」 ⑤障害者地域生活支援拠点プロジェクト	
	6月 2日	①要支援者名簿 ②備蓄品の確認と提案要望 ③市の総合防災訓練・モデルルームに関して・避難所と二次避難所	
	8月 4日	①昭島市総合防災訓練について、部会として参加方法の検討 ②学校避難所と福祉避難所の関係 ③部会のこれから	
	8月27日	昭島市総合防災訓練に参加	
	10月 6日	防災訓練の振り返り	
	12月 4日	①避難行動要支援者名簿の検討 ②避難所の福祉機器の展示実演会の実施 ③地域防災計画（要配慮者対策・福祉避難所）の検討・在宅避難者対策と学校避難所のマニュアル見直し	
	2月19日	①平成30年度総合防災訓練 ②備蓄物資改善と保管場所の検討 ③学校避難所運営委員会の情報共有 ④要援護者名簿作成と運営及び避難行動支援計画 ⑤あいぽっく避難所開設運営に関して ⑥防災部会の運営	
現状と課題	解決のための方法	実施したこと	今後の課題
避難行動要支援者名簿の検討	名簿作成過程の進捗状況の確認	・要援護者数が市全体で約6千名、乳幼児と妊婦を除くと約3千名とわかった	・名簿利用法の検討 ・民生委員との連携
避難所の福祉機器の展示実演会の実施	総合防災訓練に参加とモデルルームの設置の検討	活動の成果として ・筆談ボードが学校避難所に整備されることになった ・要援護者のためのポータブルトイレの有効性に関心が持たれたこと	災害時への対応の平時の備えについて ・障害特性への配慮（人工呼吸器／体温調節困難者のための取り組み） ・障害者支援のためのボランティア養成 防災訓練当日について ・障害への配慮（筆談ボードの全ブース設置・立て看板に書いて移動する ・プラカードのようなものを用意する等） ・車椅子の移動の手伝いや、体育館の誘導訓練の実施 備品等について ・備品等に関しては、来年8月くらいまでの会議で検討予定
		あいぽっくで福祉避難所開設訓練が行われた	・あいぽっくとして、健康課での継続的な実施 ・会館避難所と福祉センター避難所・施設避難所（老人ホームなど）との連携

地域防災計画(要配慮者対策・福祉避難所)の検討	要支援者の課題の検討と運用の検証	・部会へ防災課が参加	・要援護者避難計画（全体計画から個別計画へ） ・在宅（民生委員との連携） ・在宅対策は次期に繰り延べ ・学校避難所のマニュアル見直し（要援護者受け入れを周知する） ・災害発生時からの時間経過による分類 ・学校以外の避難所運営マニュアルの策定 ・学校避難所（一時避難所）での、要援護者の振り分け ・平時の周知の工夫（障害特性やそれに応じた支援方法等をまとめた小冊子（障害者差別解消法のパンフレットを避難所の管理責任者に配布するなどの有効活用等）や、学校の防災訓練に組み込む等） ・学校避難所運営委員会の進捗状況等の情報共有
自由 記載欄	・8月27日の昭島市総合防災訓練に参加したことで、一般市民と障害者との相互理解への一歩がなされた。学校避難所での要援護者の避難対応が今後の課題である。 ・学校避難所運営委員会に個々の委員が参加することで、障害者が避難することが周知されているが、防災部会として取り上げていきたい。 ・防災課・障害福祉課だけでなく、広く関係機関・団体からの情報収集と参画を呼びかける。		